

境町創生取り組み最前線

橋本町長、青谷会長がマリキナ市立大学客員教授に就任



境町 橋本正裕町長
株式会社坂東太郎 青谷洋治会長



←マリキナ市立大学の学生との記念写真 ↑学生たちのコーラスやダンスによる盛大な歓迎の様子

橋本町長、坂東太郎会長が大学客員教授に。消防車寄贈式も挙

姉妹都市 フィリピン・マリキナ市 + 国際交流進化

町は、2月18日、19日にマリキナ市立大学やマリキナ市役所を訪問。橋本町長と「坂東太郎」青谷会長が大学の客員教授に就任するほか、坂東太郎での就業体験受け入れ協議、町の消防車寄贈式などを実施しました。

坂東太郎で学生10人を受け入れ就業体験



マリキナ市立大学生のインターンシップ受け入れの具現化へ向けて大学側と協議する青谷会長（手前右端）。学生への記念講演では、「坂東太郎で成長し、マリキナに戻ってビジネスを起してほしい。坂東太郎は学生の皆さんのお役に立つような会社でありたい」と語った

在フィリピン日本国大使館で懇談



在フィリピン日本国大使館にて、加納雄大大使（右から2人目）からフィリピンの現在の経済・政治情勢について講演を受け、同国への輸出及び販路拡大、入管法の改正による今後の日本への影響について懇談

マリキナ市への防災支援として、町の消防車を寄贈



マリキナ市役所で行われた消防車の寄贈式。新旧の入れ替えにより役目を終えた町の消防ポンプ自動車をマルセリーノ・R・テオドロ市長（左から4人目）に贈呈する橋本町長（同3人目）。境町消防団篠塚副団長（同2人目）、本谷副団長（左）も訪問し、操縦方法を隊員たちに伝えた



←消防車の操作方法を指導する境町消防団本谷副団長（右奥） ↑地元消防隊員による歓迎のダンスと共に



マリキナ市立大学客員教授任命書を手記念撮影を行う橋本町長（右から3人目）、坂東太郎の青谷洋治会長（同4人目）、同大のハビヤン・エリコ・メミジェ学長（同5人目）

英語教育を架け橋に
パートナーシップを強化！

町は、平成29年5月にフィリピン・マリキナ市と姉妹都市交流協定を結び、「英語教育」を主とした様々な国際交流を行っています。今回、よりいっそうの交流を図るため、2月18日、19日にわたり、橋本町長をはじめ、同町出身で、株式会社坂東太郎グループの創業者である青谷洋治会長、境町消防団の篠塚松男副団長、本谷隆司副団長などが、マリキナ市を訪問しました。

初日、創立記念日のマリキナ市立大学を訪問し、橋本町長のあいさつ、青谷会長の講演が行われました。講演終了後には、ハビヤン・エリコ・メミジェ学長から、橋本町長と青谷会長に客員教授の称号が授与されました。坂東太郎では、学生インターンシップ10名が就業体験のため6月以降に来日することが決定しました。また、翌日には、マリキナ市役所を訪問し、町で入れ替えとなった消防車の寄贈式を実施しました。

世界を変革するための国際目標として掲げられている、SDGsの17の目標の「貧困をなくそう」、「質の高い教育をみんなに」、「人や国の不平等をなくそう」、「住み続けられるまちづくりを」一解決するため、境町は先進的な英語教育「スーパースーパーグローバルスクール（SGS）事業」を推進しています。

メディアでは「親の所得格差が子の教育格差を生み、貧困が連鎖する」という記事をたびたび目にします。「親の経済力によって大学進学率に差がつくのはおかしい」と考える人は多く、公的な教育投資を増やすような論調が大きくなっています。

マリキナ市のマルセリーノ・R・テオドロ市長は、フィリピンで初めて、市立大学の学費の無償化を実現しました。これは、「どんなに貧しい家庭に生まれ育った人でも、平等で充実した教育を受ける機会が与えられなければならない」という市長の強い思いから始まっています。

境町でも、平成30年度から、年間1億円の予算をかけ、フィリピンから招聘した質の高い先生方17名が、毎日、小学1年生から中学3年生まで英語の授業を行うSGS事業を開始しています。家庭の所得に関係なく、英語の塾に通えないご家庭も、境町ならば無料で、本格的な英語の授業を受けることができます。

今後も、姉妹都市として、英語教育を架け橋にマリキナ市との連携を強化し、絆を育んでいきます。